

病害虫発生予察注意報（第3号）

令和6年12月20日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ミカンナガタマムシ

作物名：カンキツ類

1 発生地域：県内全域

2 発生量：-

3 注意報発令の根拠

- (1) 近年、県西部を中心に本虫による被害が拡大している。また、巡回調査においても、10月以降被害が確認される園地が急激に増加している。
- (2) 本年6月から9月にかけて、高温および日照時間の多い傾向が続き、7月および9月においては降水量が少なかった。以上の気象要因により樹勢の低下が進み、秋以降の被害の多発を招いたと推測される。被害の拡大防止が急務であると考えられる。

4 生態および被害

成虫、幼虫（図1）ともにカンキツ類のみを加害する。成虫は体長6～10mm、体色は黒銅色。老齢幼虫は体長15～20mm。若齢期に樹皮下の形成層を食害（図2）、幼虫態で越冬する。4月頃から蛹化、5月頃から羽化を開始し、幹の裂け目等に産卵する。6月中旬に羽化最盛期を迎え、10月頃まで続く。成虫は葉の周縁部から加害し、食害痕は鋸歯状となる（図3）。

干ばつ、日焼け、寒害、台風、老化等により樹勢の低下した樹に多く発生する。被害にあった枝や幹はひび割れて枯れ、樹脂の漏出（図4）が認められることがある。甚だしい場合には樹が衰弱・枯死する（図5）。放置すると被害は急速に拡大する。

5 防除対策

- (1) 冬期の寒害対策、適切な剪定・肥培管理を行い、樹勢の維持に努める。
- (2) 被害枝・樹は、5月までに剪除・伐採を行う。
- (3) 剪除枝・伐採樹を放置すると、成虫の発生源となるため、園外に持ち出し適切な処理を行う。



図1 ミカナガタマムシ
左：成虫 右：幼虫



図2 幼虫による樹皮下形成層の食害
矢印：成虫脱出孔



図3 成虫による葉の食害



図4 被害樹における樹脂の漏出



図5 樹の部分的な枯損（左側）

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002>